

背景

- 我が国のマンガ、アニメ、特撮、ゲーム等は、広く国民に親しまれているだけでなく、海外からも高い人気を得るなど、我が国を代表する文化。また、これらの文化資源は国際的な相互理解、訪日観光の促進に貢献し、コンテンツ産業として我が国の基幹産業となるもの。
コンテンツ産業の規模(123.6兆円)は、半導体(77.0兆円)を越え、海外売り上げ(4.7兆円)は鉄鋼業、半導体の輸出額に匹敵。
- 一方、中間生成物等の流出・散逸・劣化などが進んでいる。他方、中国や韓国、仏国ではマンガ等保存・活用の拠点が整備されるなど、中長期的視野に立った取組が行われている。

保存・活用に関する現状

- 作品の制作過程でクリエイターが生み出すマンガの原画やアニメの原画等中間生成物等は創造活動の中で生み出された貴重な資料。歴史的・文化的・芸術的・技術的な価値等が見出され、新たな価値創造の源泉となっている。
- 多様で多くの作品・中間生成物等は、全国のマンガ等博物館、大学、民間企業・団体等の関係機関が、それぞれの方針に基づき、保存・活用に関する取組を進めている。

保存・活用に関する課題

- ① 作品・中間生成物等の散逸・劣化・流出への早急な対応
 - ・膨大な資料の保管・作業スペース
 - ・専門人材の不足 等
- ② 展示・教育・研究等活用等の推進
 - ・体系的なアーカイブ、展示等による発信の体制が脆弱
 - ・専門人材の不足 等
- ③ マンガ等文化の価値づけ・国内外でのプレゼンス確保
 - ・歴史的・文化的・芸術的・技術的な観点からの体系化
 - ・保存・活用の好循環につながるためのレギュレーション等の整備ができていない。 等
- ④ 人材育成、教育普及
 - ・保存技術や活用方策、評価、価値づけ等を含めた調査研究、専門人材やクリエイターの育成・確保が十分ではない。
 - ・研究者育成の機会が不足 等

全国の産学官の関係機関のネットワークによるこれまでの取組と成果・課題

①文化庁「メディア芸術連携基盤等整備推進事業」を契機としたネットワークの例 <第1期：R2～R6>

①マンガ・アニメ・ゲームのアーカイブ機関等のネットワーク化
ネットワークにおいてマンガ原画一時保管（約39万枚）、相談窓口の設置、メディア芸術データベースの登録（約150万件）等に対応。

（マンガ分野の例）「マンガ原画ネットワーク協議会」参加施設★
その内一時保管スペースを提供している施設

青山剛昌ふるさと館★
熊本大学 国際マンガ学 教育研究センター★
湯前町まんが美術館★
立命館大学 ゲーム研究センター★
京都国際マンガミュージアム（京都精華大学）★
横手市 増田まんが美術館★
石ノ森萬画館★
北九州市 漫画ミュージアム★
須賀川特撮 アーカイブセンター★
高知まんがBASE★

・（一社）マンガアーカイブ機構
・（特非）アニメ特撮アーカイブ機構
・NPO法人ゲーム保存協会
・ナツゲーミュージアム
・（一社）日本アニメーター・演出協会
・明治大学★
・米沢嘉博記念図書館★

<成果>

特色ある保存・活用の関係機関がネットワークでつながることにより、アーカイブの調査研究、貴重な資料の所在等情報共有、相互貸し出し、専門人材育成の可能性が拡がりつつある。

<課題>

- 散逸・流出・劣化防止への対応に必要な、保存・作業場所や専門人材の確保が不足
- 各機関が個々に抱える相談内容について一元的な対応が十分にできていない
- 保存等課題に関する国内外の専門機関との調査研究、共同企画による展示等の交流・連携が十分でない 等

③メディア芸術データベース

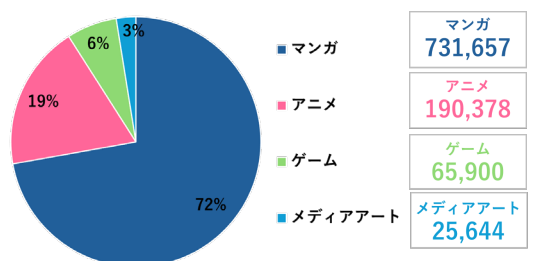
資料所在情報を一元的に検索可能な横断型データベース。それぞれが隣接する4分野を総体的に検索できるよう設計（R5より、国から国立美術館へ移管）

登録データ件数：1,537,789	登録データ項目数：39,767,063
-------------------	---------------------

②マンガやアニメ等の保存・活用に取り組む自治体の連携会議における情報共有 <約30自治体が参加>



分野別登録データ件数の比率

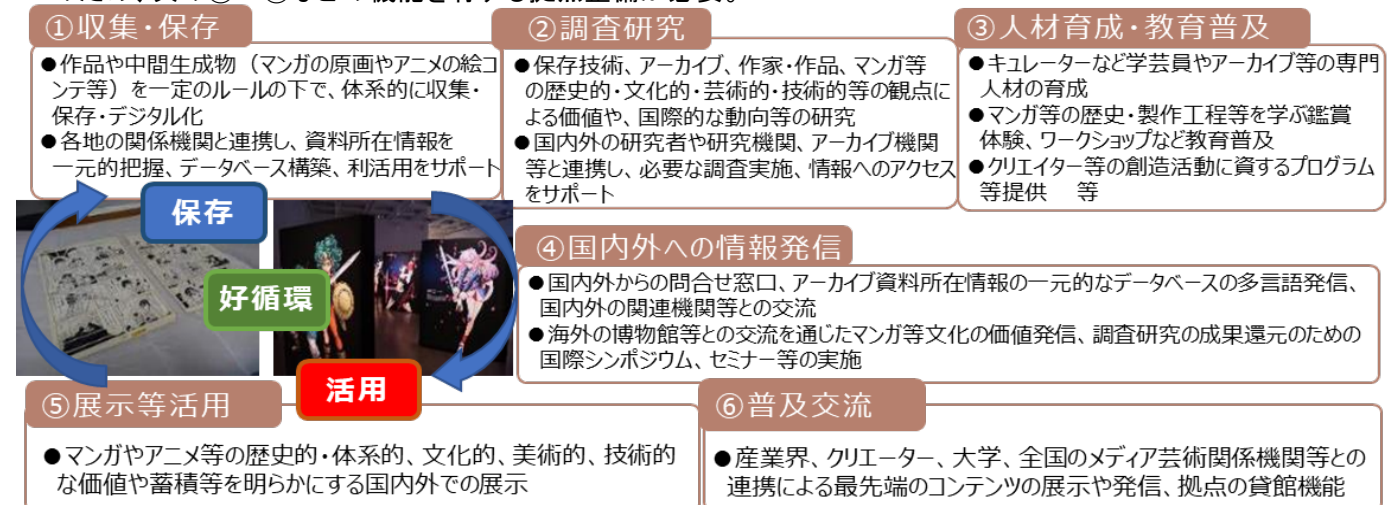


マンガ等国際的な振興拠点の意義・必要性

- マンガ等の作品・中間生成物等は、保存・継承されることで、次代のクリエイター等がそれらに触れる機会を通じてインスピレーションを与える等の創造的活動につながる新たな価値創造の源泉となる貴重な資料。
- それらの保存・継承、マンガ等文化の価値発信を通して、マンガ等の文化の価値を発信し、創造活動から、文化の理解促進、教育研究、産業での活用等によるコンテンツ振興を支え、多くの人々の心の豊かさにつながる場としての拠点が必要。
- 国の拠点は全国の産学官関係機関のネットワークとの連携の中で、様々な保存・活用の好循環が実現される仕組みの中核として整備されることが必要。

マンガ等の国際的な振興拠点に求められる役割・機能

- 中間生成物等の散逸・流出・劣化防止への早急な対応、教育研究、専門人材育成・確保等の個々の関係機関では対応困難な課題解決に向けて、全国の産学官関係機関をつなぐ「ハブ」としての役割を担いつつ、関係機関が参画するネットワークの取組を支え、マンガ等文化全体の振興拠点となることが要請されている。
- クリエイターや多くの人々が、貴重な資料に触れられる機会を提供するため、国として、過去から現在までの作品・中間生成物等を歴史的・文化的・芸術的・技術的等の観点から、産学館ネットワーク連携の下で、専門家等による展示やデータベース構築等を通じた価値づけ、海外からの交流等の要請対応含め、世界に日本のマンガ等魅力発信を行う。このため、次の①～⑥などの機能を有する拠点整備が必要。



国の振興拠点施設の在り方について

- ① 流出・散逸・劣化等を防ぐマンガ等中間生成物等の収蔵施設の整備
 - ・アーカイブ等の専門人材を配置し、保存の緊急性の高い中間生成物等を一定のレギュレーションの下で、計画的に受入れ、温湿度管理など適切な環境で保存
 - ・保存専門的知見・ノウハウの蓄積を有する国立映画アーカイブ相模原分館における整備を検討
- ② 調査研究、人材育成、国際的な情報発信等を行う「ハブ」となる拠点の整備
 - ・産業界、教育機関、海外関係機関との国際的な交流を行う、上記②～④の機能を有するマンガ等文化の専門のリサーチセンターとしての拠点整備が必要
- ③ 展示等活用や普及交流等を行う「顔」となる集客施設
 - ・我が国の宝として保存・継承されるマンガ等作品・中間生成物等に直に触れ、人々の豊かな体験や、クリエイターの創造活動につながる空間
 - ・産業界、大学等との連携による最先端のコンテンツ展示や発表
 - ・持続可能な運用を目指し、利活用等による多様な収入源を保存や人材育成に活かすなど、「保存と活用の好循環」を生み出す方策の検討も必要

引き続き、マンガ・アニメ等中間生成物等の検討委員会ははじめ、産業界、関係機関、有識者等関係者との丁寧な議論と検討を重ねていくことが必要。

国際的な振興拠点と全国の産学官関係機関のネットワークとの連携による振興

- 全国の関係機関において、それぞれの特色を生かした多様な取組を進めているが、①保管・作業スペース、②専門人材の確保、③それらに必要なコストの確保など、安定的な運営等が常に課題。
- 個々の関係機関では対処が難しい課題解決に向けて、国は、関係機関のネットワークにおいて効果的な取組の支援を通じた連携を進め、我が国のマンガ等文化全体の振興を行うことが期待される。

国のセンターが「ハブ」となり、全国の産学官関係機関のネットワークと我が国全体の保存・活用を推進

